

八千代市の男女共同参画を取り巻く現状等について

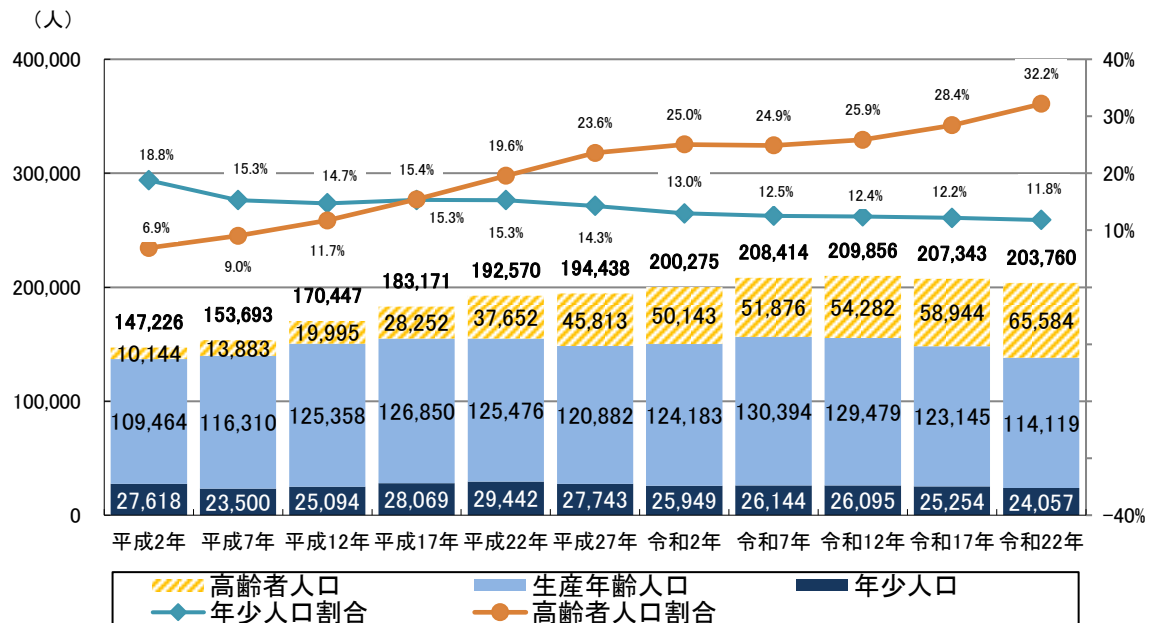
1 人口・世帯の状況

(1) 人口の状況

本市の総人口は増加を続けており、令和2年には20万人台(200,275人)となっています。全国的には少子高齢化と人口減少が進んでいますが、本市では人口が増加傾向、高齢者人口割合は上昇、年少人口割合は低下傾向にあります。

八千代市人口ビジョン(令和5年改訂版)における基本推計によると、総人口は令和11年をピークとして減少に転じ、令和22年に203,760人となる見込みです。高齢者人口割合は上昇傾向が続き、令和22年には30%を超えることが予測されています。

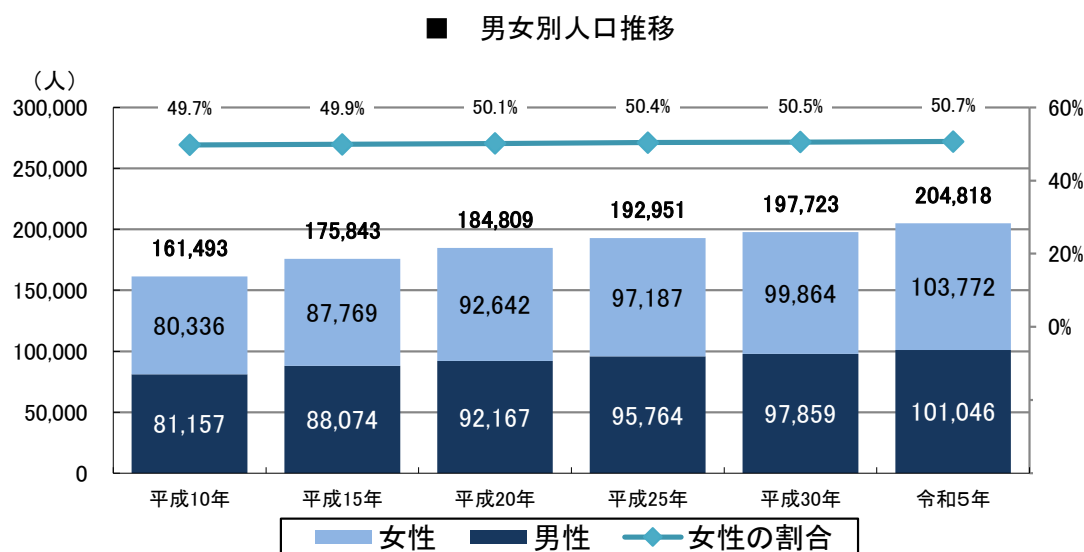
■ 人口推移



※ 各年3月31日現在。

資料：住民基本台帳(令和2年以前)、
八千代市人口ビジョン(令和5年改訂版)における基本推計(令和7年以降)

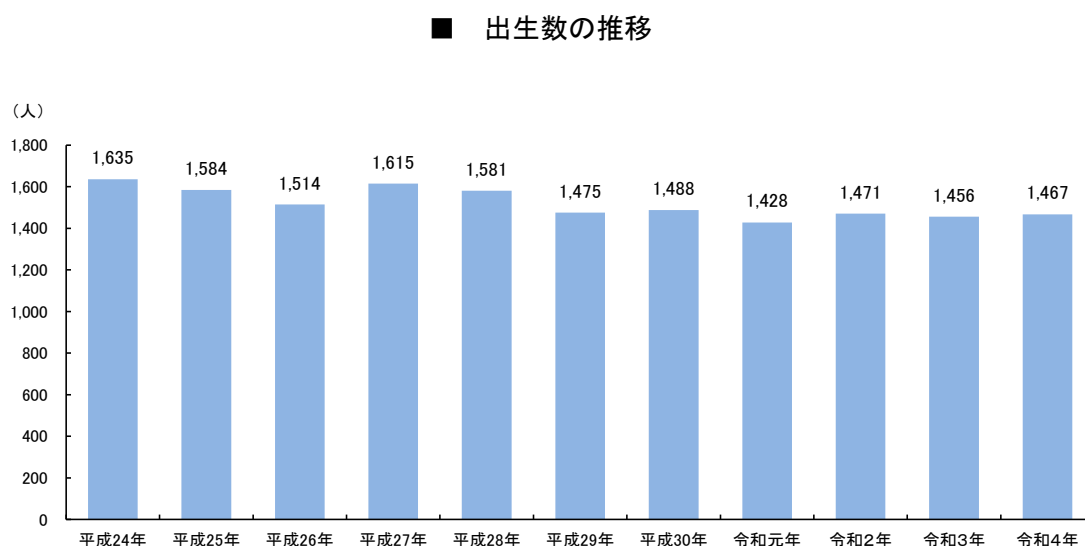
本市の人口を男女別にみると、平成 20 年以降は女性の人数が男性をやや上回っているものの、ほぼ 1 : 1 の割合で推移しています。



※ 各年 3 月 31 日現在。

資料：住民基本台帳

本市の出生数※は増減を繰り返しながら減少傾向にあり、平成 29 年以降は 1,500 人を下回っています。



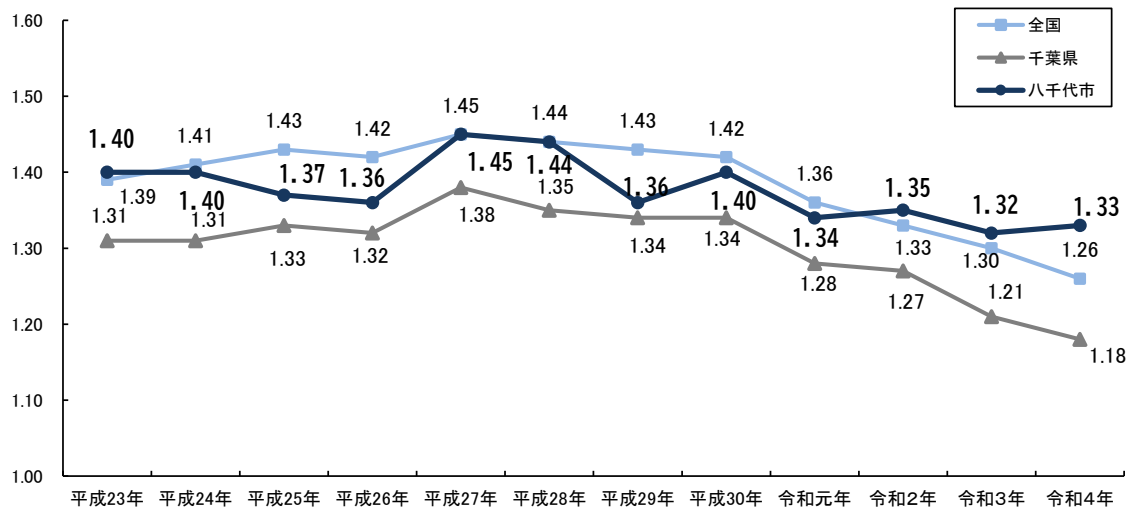
資料：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査（総務省）

※出生数

調査期間中（平成 24 年までは各年 4 月 1 日～翌年 3 月 31 日、平成 25 年以降は 1 月 1 日～12 月 31 日）に、出生の届出または通知により新たに住民票に記載された人の数。

本市の合計特殊出生率※は、増減を繰り返しながら低下傾向にあります。令和4年の本市の合計特殊出生率は1.33であり、令和2年以降、全国平均値及び千葉県平均値を上回っています。全国、千葉県、本市とも、人口を維持するために必要とされる値2.08を大きく下回る状態が続いています。

■ 合計特殊出生率の推移



資料：千葉県衛生統計年報

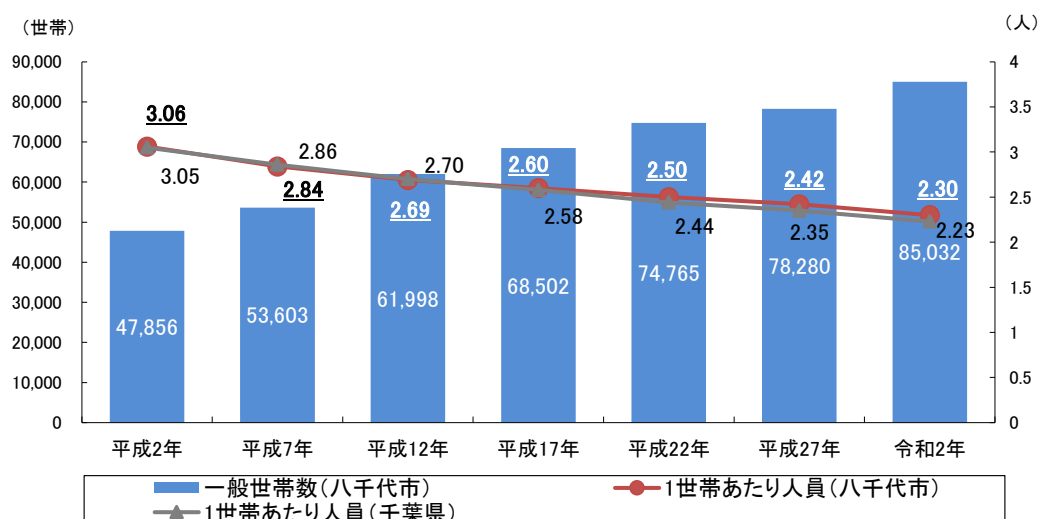
※合計特殊出生率

15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当します。

(2) 世帯の状況

本市における一般世帯数は増加を続けていますが、1世帯あたり人員は県平均と同様に減少を続けています。令和2年の本市の1世帯あたり人員は2.30人であり、県平均をやや上回っています。

■ 世帯数及び1世帯あたり人員の推移

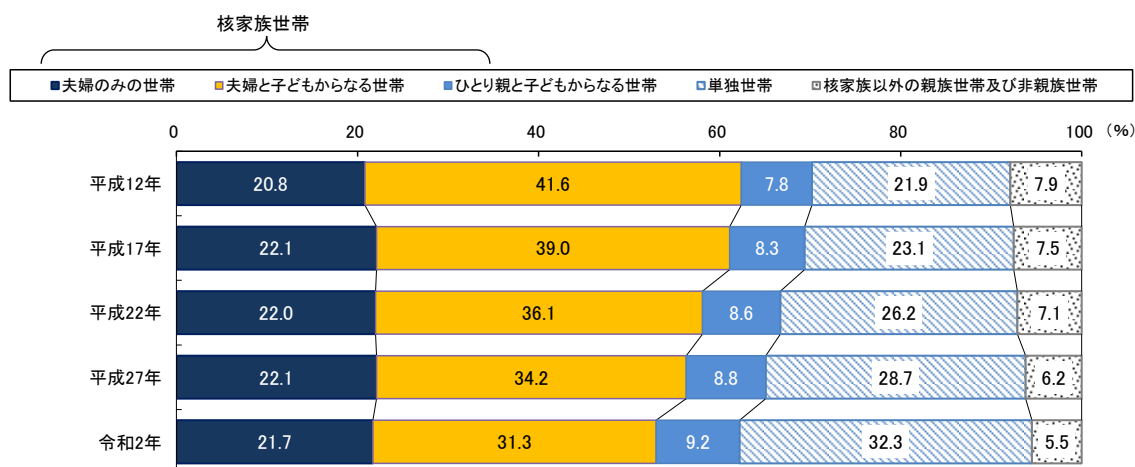


資料：国勢調査

本市の世帯の家族類型比率の推移を見ると、核家族世帯は平成17年まで7割前後を占めていましたが、減少傾向にあり、令和2年には6割強となっています。単独世帯については平成12年から増加を続けており、令和2年には全体の3割強となっています。

核家族世帯の内訳をみると、夫婦のみの世帯が平成17年以降横ばい、ひとり親と子どもからなる世帯が微増である一方で、夫婦と子どもからなる世帯の割合は減少を続けています。

■ 世帯の家族類型比率の推移

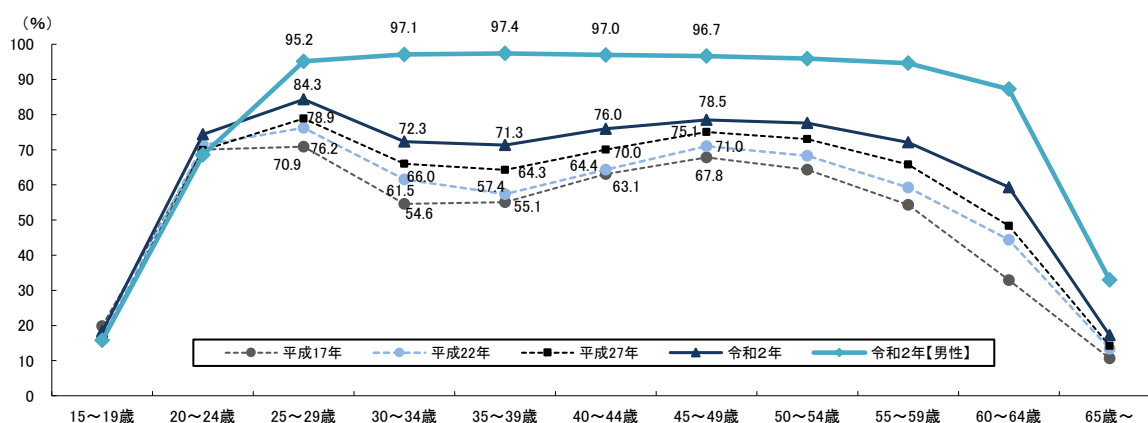


資料：国勢調査

2 就労・雇用環境

本市の女性の年齢階級別労働力率は、従来 30～39 歳を中心に比率が低い形となっています。近年、ほとんどの年代で労働力率が上昇しており、M字の状態が緩やかになってきていますが、多くの年代において男性の労働力率を大きく下回る状態となっています。

■ 八千代市の女性の年齢階級別労働力率の推移

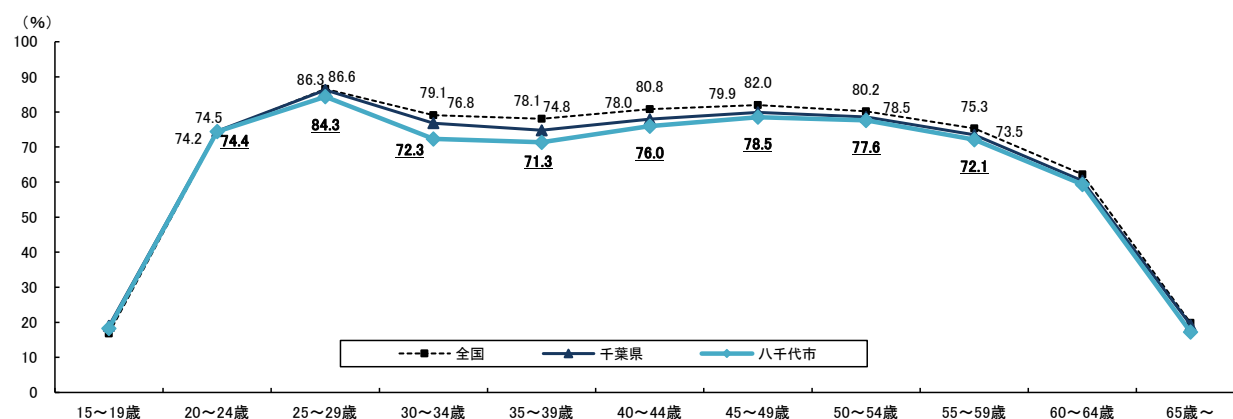


※ 労働力率は 15 歳以上人口に占める労働力人口（就業者＋完全失業者）の割合

資料：国勢調査

女性の年齢階級別労働力率は、全国、千葉県、本市ともM字の状態が緩やかになってきています。本市の女性の年齢階級別労働力率は、25 歳以降の年代で全て全国及び千葉県を下回っています。

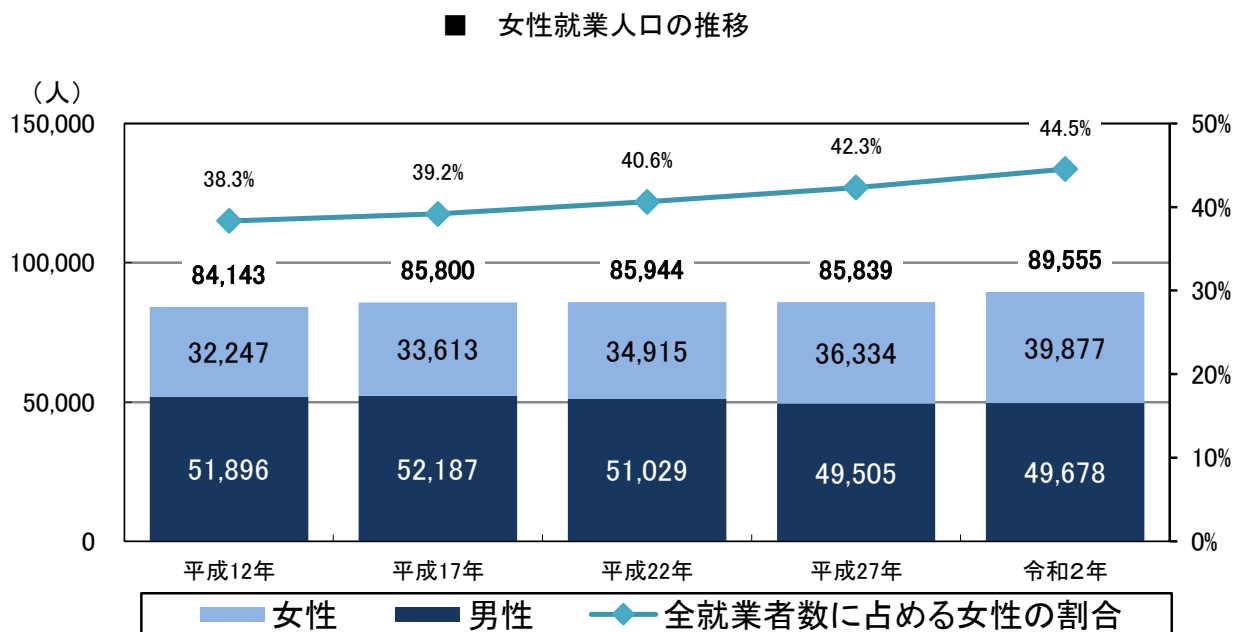
■ 全国、千葉県、八千代市の女性の年齢階級別労働力率



※ 労働力率は 15 歳以上人口に占める労働力人口（就業者＋完全失業者）の割合

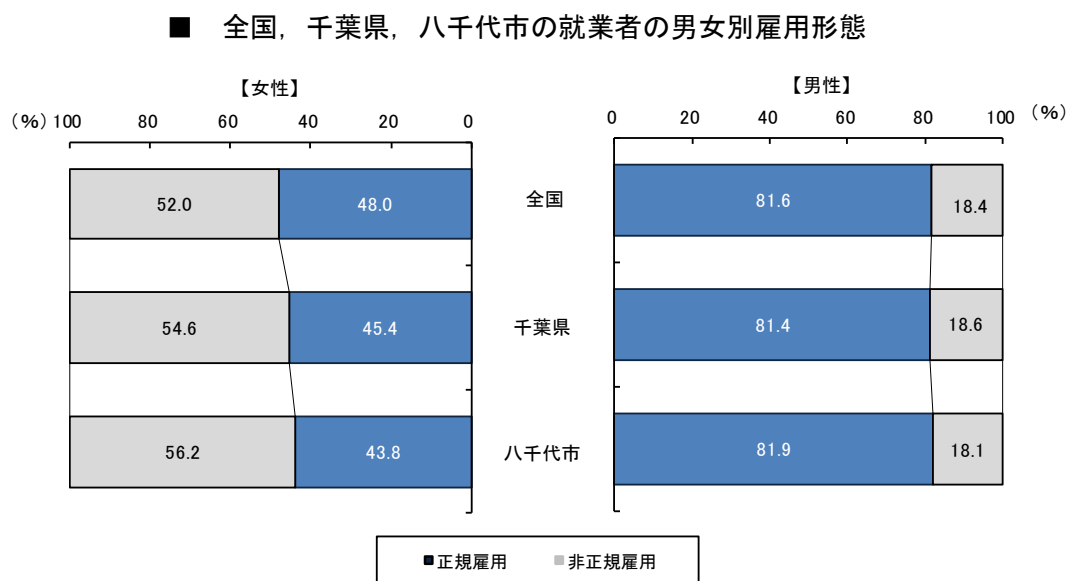
資料：国勢調査

本市の男性の就業者数は減少傾向にあるのに対し、女性の就業者数は平成12年以降増加しています。全就業人口に占める女性就業人口の割合は平成22年に40%に達しており、令和2年には44.5%となっています。



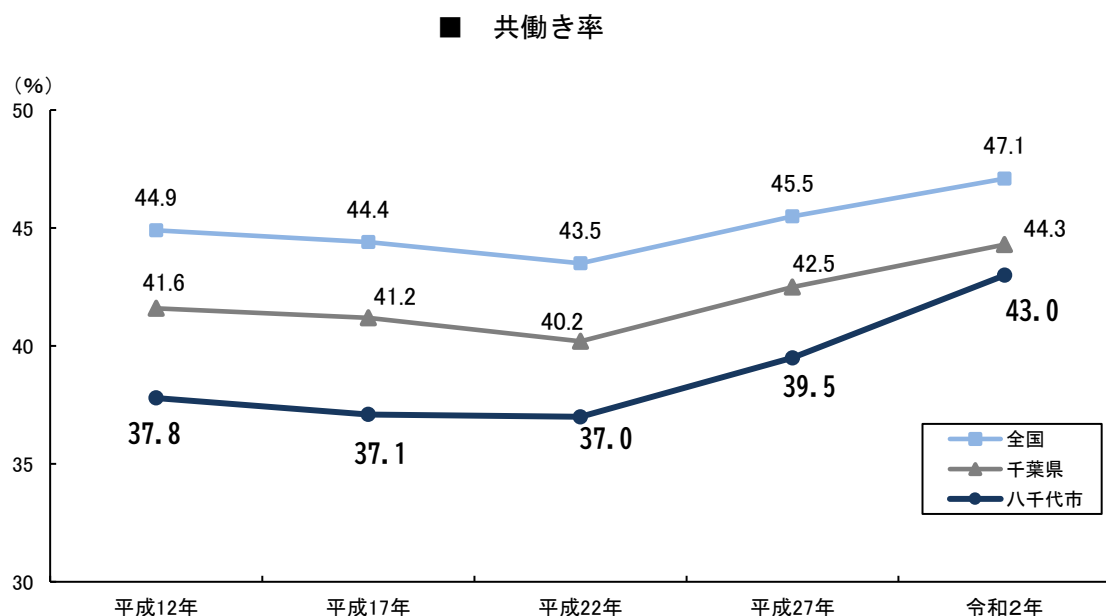
資料：国勢調査

就業者の雇用形態を見ると、男性の正規雇用率は全国・千葉県・本市とも8割強となっています。一方、女性の正規雇用率は全国が5割弱、千葉県が4割台半ば、本市では4割強となっており、男性に比べて女性の正規雇用率が低いことがわかります。本市は男性では全国及び千葉県よりも正規雇用の割合が高いのに対し、女性では全国及び千葉県よりも正規雇用の割合が低くなっています。



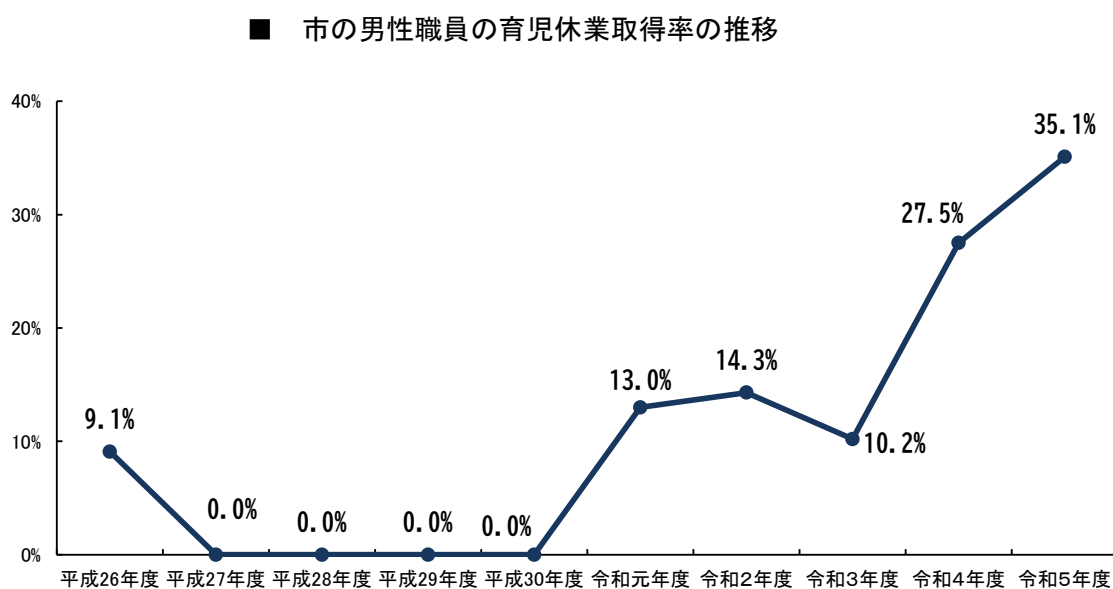
資料：国勢調査（令和2年）

共働き率の推移を見ると、平成 22 年度以降は全国、千葉県、本市とも比率が上昇傾向にあり、本市の共働き率は令和 2 年で 43.0%となっています。全国・千葉県と比べて本市の共働き率は低い状態で推移してきましたが、近年は千葉県との差が小さくなっています。



資料：国勢調査

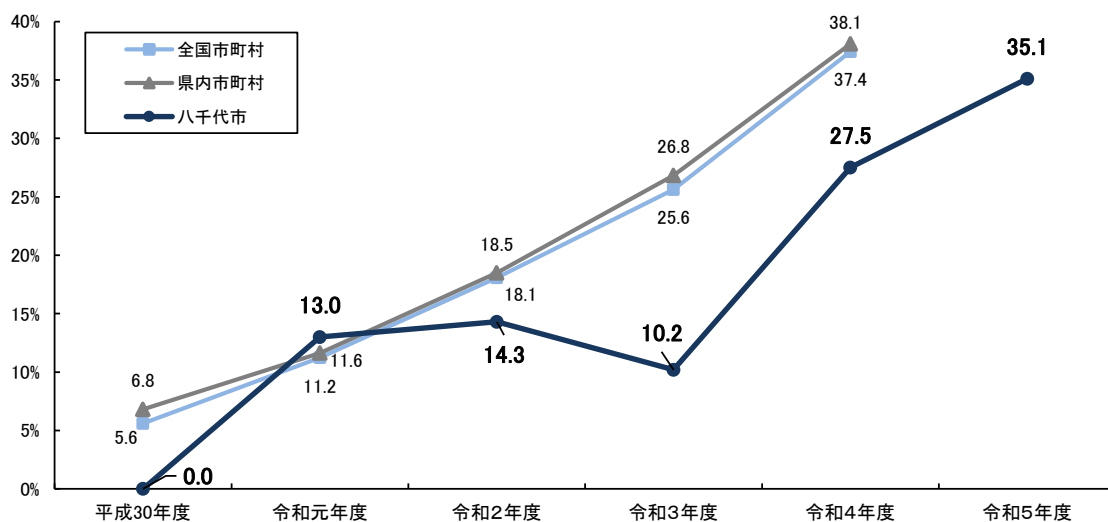
本市の男性職員の育児休業取得率の推移を見ると、令和元年度～3年度は 10%台で推移してきたものの、令和 4 年度以降は取得率が大幅に上昇しており、令和 5 年度時点で 35.1%となっています。



資料：職員課資料

男性職員の育児休業取得率は、全国市町村平均、県内市町村平均とも上昇が続いています。本市の取得率は令和元年度に全国市町村平均、県内市町村平均を上回りましたが、これ以外の年度はいずれも全国市町村平均、県内市町村平均を下回っています。

■ 全国、千葉県、八千代市の男性職員の育児休業取得率の推移



※ 各年4月1日時点の比率

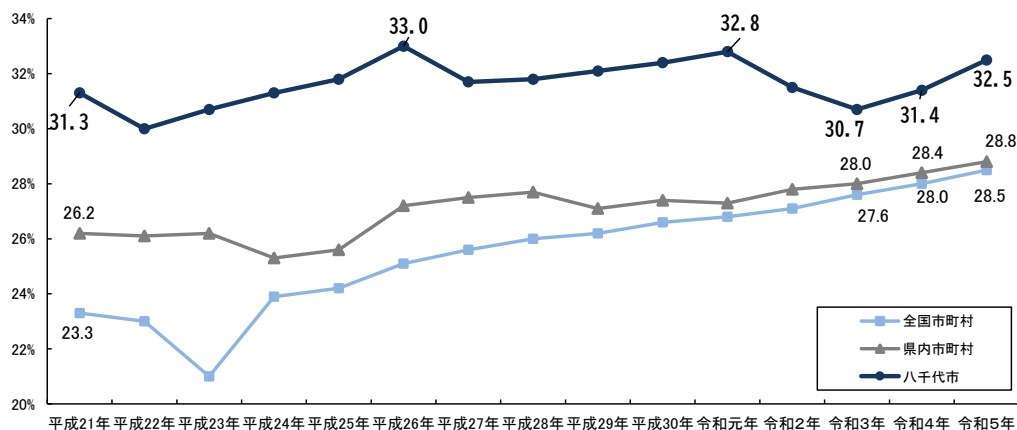
※ 育児休業取得率は、当該年度中に新たに取得可能となった職員に占める当該年度中に新たに取得した者の割合。

資料：地方公共団体の勤務条件等に関する調査（総務省）

3 政策・方針決定過程への女性の参画

本市の審議会等委員の女性比率は、令和元年から令和3年にかけて低下を続けていましたが、その後は上昇に転じており、令和5年時点で32.5%となっています。本市の審議会等委員の女性比率は、全国市町村平均値、千葉県内市町村平均値を上回っています。

■ 全国、千葉県、八千代市の審議会等委員の女性委員比率の推移



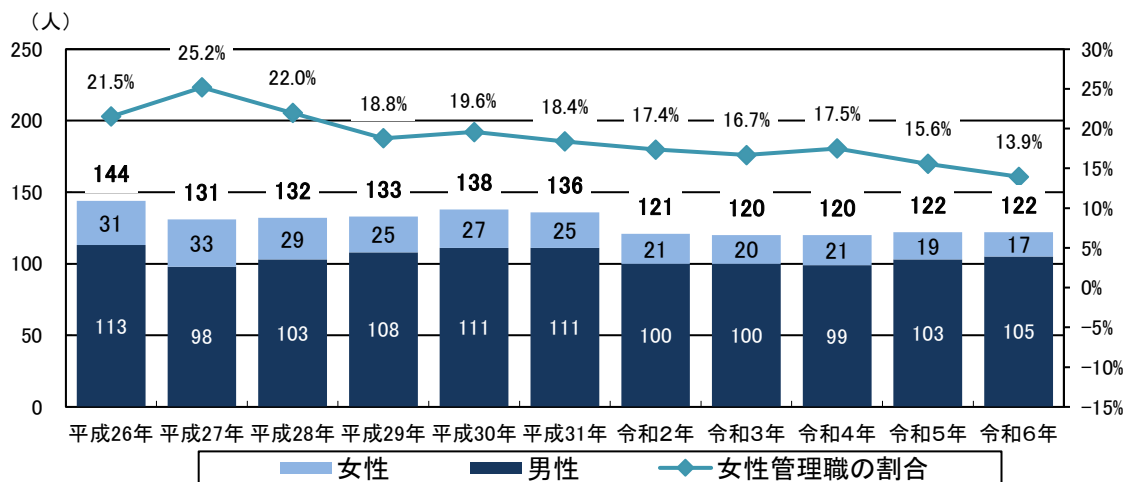
※ 各年4月1日時点の比率

※ 八千代市、県内市町村は目標設定の対象である審議会等の現状値。全国市町村は法律、政令及び条例による審議会等における女性比率。

資料：地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況（内閣府）

本市職員の女性管理職の人数は、平成26年と27年は30人台であったものの、減少傾向にあり、令和2年以降は20人前後で推移しています。

■ 八千代市職員の管理職の人数と女性比率の推移

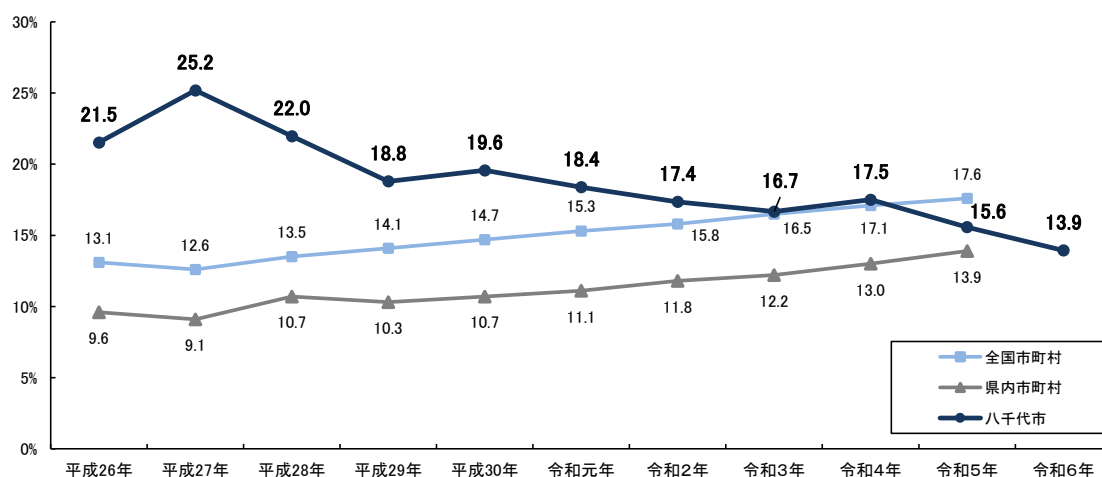


※ 各年4月1日時点

資料：職員課資料

本市職員の管理職に占める女性比率は、平成 27 年（25.2%）をピークとして低下傾向にあり、令和 6 年時点では 13.9%となっています。全国市町村平均、県内市町村平均とも女性比率が上昇傾向にあり、令和 5 年には本市の女性比率が全国市町村平均を下回りました。

■ 全国、千葉県、八千代市の管理職に占める女性比率の推移



※ 各年 4 月 1 日時点の比率

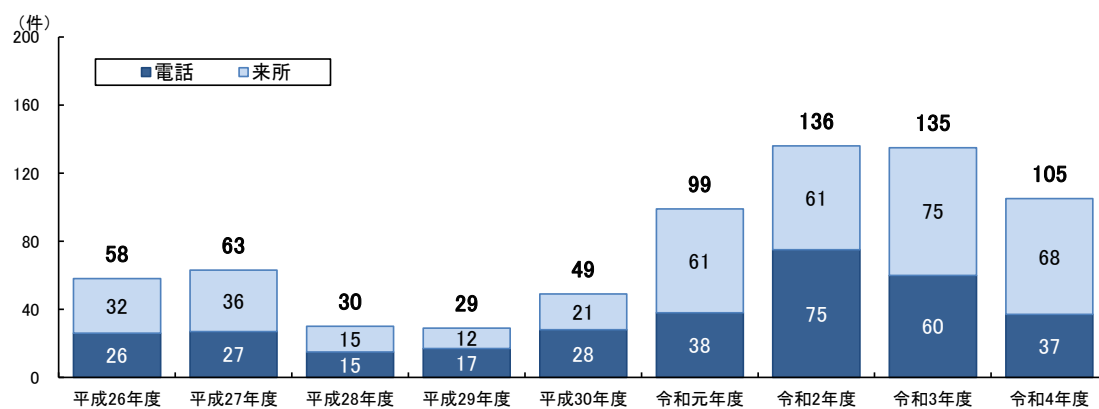
※ 課長以上の職にある職員の女性比率。

資料：地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況（内閣府）

4 配偶者等からの暴力

本市のDV相談件数は平成28年度、29年度に30件程度であったものの、平成30年度から令和2年度にかけて増加を続け、令和2年度以降は100件以上となっています。内訳をみると、平成28年度から30年度、令和2年度は電話相談の割合が半数以上となっていました。令和元年度、令和4年度は3割台にとどまっています。

■ 本市のDV相談の件数の推移

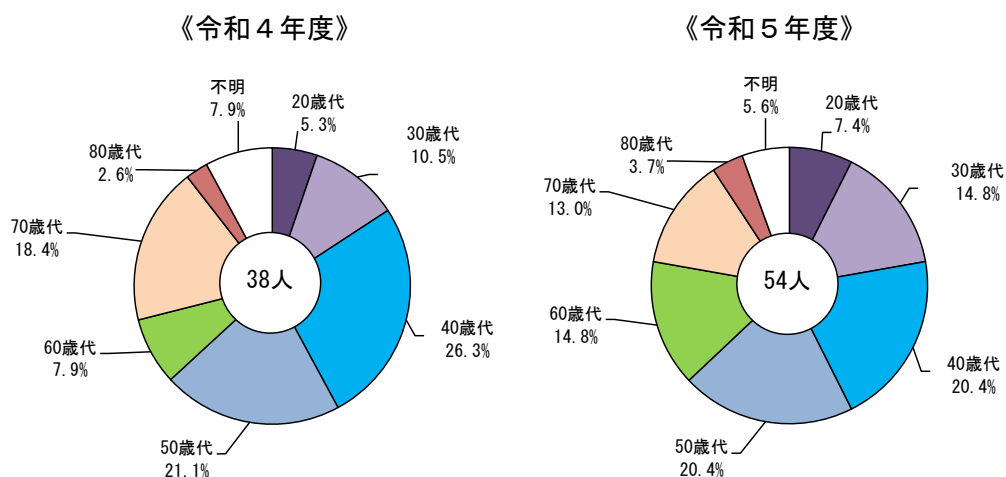


資料：千葉県健康福祉部児童家庭課資料

5 女性相談の状況

本市の女性サポート相談の利用者数は、令和4年度が38人、令和5年度が54人となっています。年代別に見ると40歳代と50歳代が多くなっています。

■ 女性サポート相談利用者の年齢

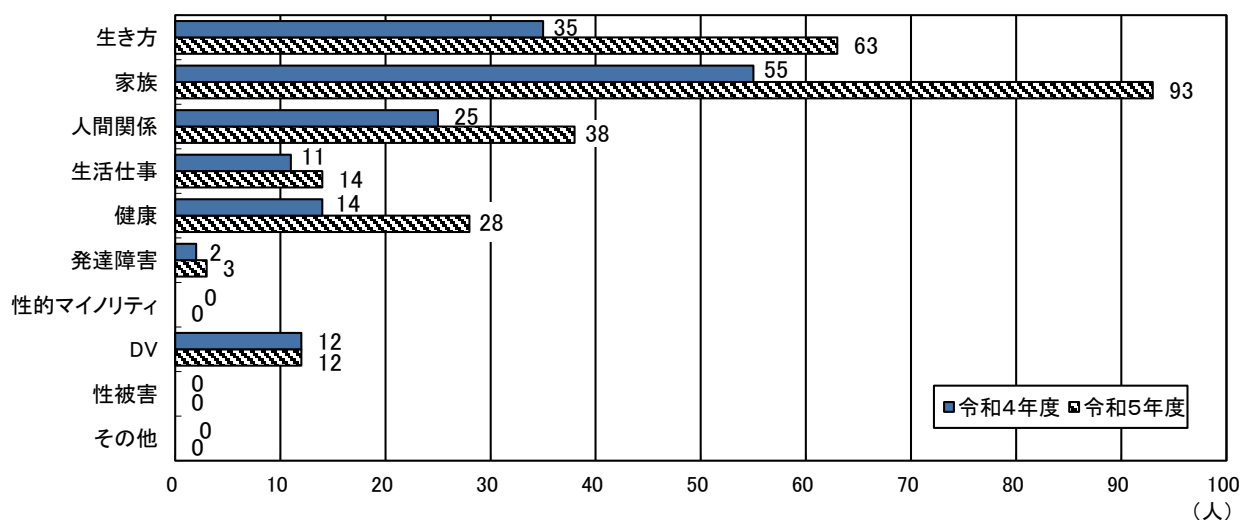


※ 四捨五入の関係で各項目の割合の合計が100.0%にならない場合があります。

資料：男女共同参画センター資料

本市の女性サポート相談における利用者からの相談内容を見ると、令和4年度、5年度とも「家族」「生き方」が多くなっています。

■ 女性サポート相談の内容別内訳



※ 相談内容は、相談件数1件につき複数の内容あり

資料：男女共同参画センター資料